

蛹體變化による發蛾豫知表

中 島 茂

發蛾調節は蠶種製造に携る人々の等しく至難とする問題にして、特に交雜種の製造を大部分とする近時に於ては尙一層である、たゞへ其の困難を豫知して掃立當時より發蛾時期の一致を計るも、其の飼育中に於ての色々な状況により二、三日の差を生ずるは是非なき事である、其故に種繭保護の場合に各品種の經過遲速を知り發蛾の調節を解らねばならぬ、經過の遲速を知らんには蛹體の變化を觀察して發蛾を豫知するに他ならぬ、然其蛹體の變化は保護温度により或は各種類により異なるは勿論なれば、或濕湿度に於ける各種類の調査を必要とする、斯く蛹體變化の特徴により發蛾期日を測定する法に就ては既に野中幸衛氏其他諸氏の調査あるも、余も尙日本種、支那種、歐州種の三品種類に就て行ひ、其變化をグラフ上に表示して參考に供せんぞ。

供試材料は日本種國蠶日一號、支那種國蠶支七號、歐州種國蠶歐七號を用ひ保護温度平均七十三度、湿度六十五度に於て調査す、各種變化の特徴を擧れば次の如しである。

經過日數	歐 州 種	日 本 種	支 那 種
發蛾 十六日前	化蛹一日目 體柔軟にして一樣 なる淡黄色 (上簇後七日目)		
發蛾 十五日前	化蛹二日目 體少しく硬化して 褐色となる		
發蛾 十四日前	化蛹三日目 頭胸部一樣褐色な るも翅派のみ光澤 を有し僅に認む	化蛹一日目 體軟く頭胸透明な る淡黄色を呈す (上簇後七日目)	
發蛾 十三日前	化蛹四日目 前日と略同様	化蛹二日目 體色黄褐色を帯び 硬化す翅派の部分 は膨れて透視し得	
發蛾 十二日前	化蛹五日目 前日と略同様	化蛹三日目 體色褐色となる	化蛹一日目 體軟く淡黄色 (上簇後六日目)

發蛾 十一日前	化蛹六日目 前日と略同様なるも眼點多少濁る	化蛹四日目 前日と略同様	化蛹二日目 未だ柔軟にして翅の先端は多少褐色となる
發蛾 十日前	化蛹七日目 翅脈淡褐色にして眼點も淡褐色	化蛹五日目 前日と略同様なるも眼點淡褐色	化蛹三日目 體硬化才翅脈は少しく褐色を帯び透視し得
發蛾 九日前	化蛹八日目 眼點褐色となる	化蛹六日目 前日に大差なし	化蛹四日目 翅の腹部に接する部分に褐色を増す
發蛾 八日前	化蛹九日目 翅の腹部に接する部が褐色となる。眼點黒褐色	化蛹七日目 眼點褐色となる	化蛹五日目 眼點少しく褐色を帯ぶ
發蛾 七日前	化蛹十日目 眼點同様に黒褐色	化蛹八日目 翅の腹部に接する部が褐色となり眼點黒褐色	化蛹六日目 眼點褐色を呈す
發蛾 六日前	化蛹十一日目 體色多少銹色となる眼點黒色	化蛹九日目 眼點濃褐色となる	化蛹七日目 眼點部一層に濃色となる
發蛾 五日前	化蛹十二日目 體色一層に銹色を帯ぶ	化蛹十日目 體色少しく銹色にして眼點黒色	化蛹八日目 眼點は黒褐色となる
發蛾 四日前	化蛹十三日目 體色は前日と略同様にして生殖器部褐色に透視し得	化蛹十一日目 體色更に銹びて生殖器部褐色に透視し得	化蛹九日目 眼點黒色となり體は銹色を裝ふ
發蛾 三日前	化蛹十四日目 體色一様に土色を帯び觸肢黒褐色	化蛹十二日目 體色銹びたる土色にして蛾の生殖器外部より褐色に見ゆ	化蛹十日目 胸及觸肢は淡褐色生殖器部は淡褐色に見ゆ
發蛾 二日前	化蛹十五日目 體色更に土色を加へ外形成皮と内形成皮の區別を得	化蛹十三日目 體色更に土色を加へ生殖器部黒褐色に透視し得らる	化蛹十一日目 體色は土色となり蛾の生殖器褐色に見ゆ
發蛾 前日	化蛹十六日目 體土色にして柔軟となり多くの細皺を生じ生殖器部は黒色となる	化蛹十四日目 土色柔軟にして細皺を生じ生殖器部のキチン質黒色に透視し得	化蛹十二日目 體土色觸肢及生殖器部黒色
發蛾	化蛹十七日目 (上 後二十三日目)	化蛹十五日目 (上 簇後十七日目)	化蛹十三日目 (上 簇後廿一日目)

以上の三系統の蛹體變化をグラフに示せば次の如くである、元來體色及形狀の變化を數理的なるグラフ上に表するは不合理なるやを慮るも、之が發蛾豫知の爲めに多少さもの參考となれば幸甚の至りである。

